

ことごとてく

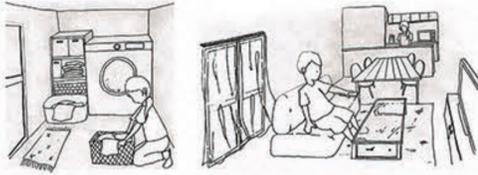
- “わたしを想うあなた” を想う家 -

1 定義 - 愛は相手を想う時間 -

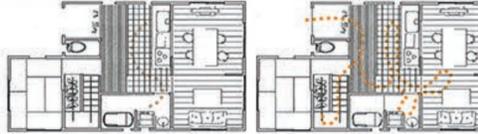
相手のために何かをする。そのための準備を整える。相手のことをふと考えてしまう。そんな時間に気づいたとき、私たちは相手への愛を実感する。けれど、相手からの愛に無意識な生活の中でそれに気づくことは難しい。愛の時の大きさに気付いた時、きっと相手のことをもっと大切にできる。愛の家では、相手のために何かをする空間を「愛事空間」、相手のことを想う空間を「想事空間」とし、設計を進めていく。

2 現状 - 愛の時を無視する家 -

愛の時の一部である家事をする場所は、部屋の中心に閉じ込められているところ。繋がっていても後ろは壁で、影の存在のように感じるところ。この場所では、隠れるように家族への愛の時を過ごす。



また、「愛事」には**といった家事には含まれないことも多くある。現在の家では家事動線の縮小が意識されているが、愛事動線は考慮されていないため、家事に含まれない愛事は家に点在する個室で人知れずに行われている。



3 提案 - 愛の時に気づく家 -

1. 愛事空間と想事空間の対比

自分とは違うことをしていることを認識することで、自分へ向けられた愛の時を感じやすくする。すると自然に「想事」（相手を想うこと）が増え、「愛事空間」を通る時には自分も家族のために何かしようと思う。

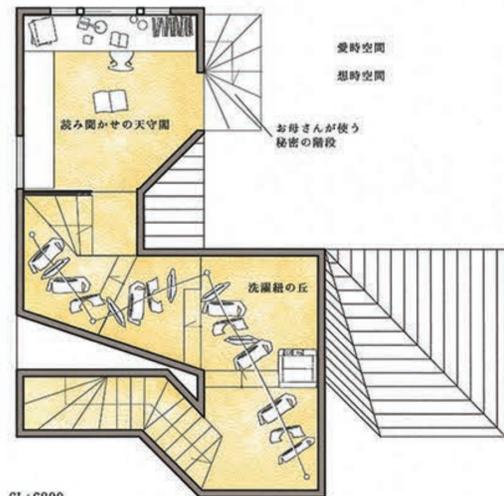
2. 愛事空間は家の特等席

家事をする場所が影に置かれ、愛事が点在して孤立している現在の家とは違い、「愛事」を拾い集め、繋げる事で「愛事空間」を作った。「愛事空間」は家の特等席を巡る。私たちが大切にしたい時間を、素敵な空間で過ごすように、みんなが目を向けるように。

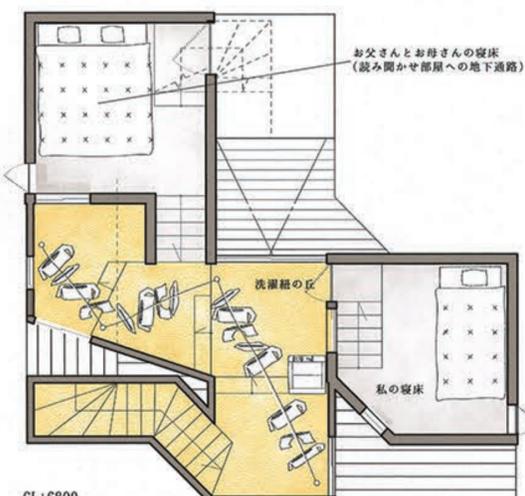
3. 想事空間から愛事空間を直接的、間接的に感じる

リビングから出ると愛事から遮断される現在の家とは違い、自室に入った時には、直接見ることはなくとも聴覚や嗅覚から「愛事」を感じる。

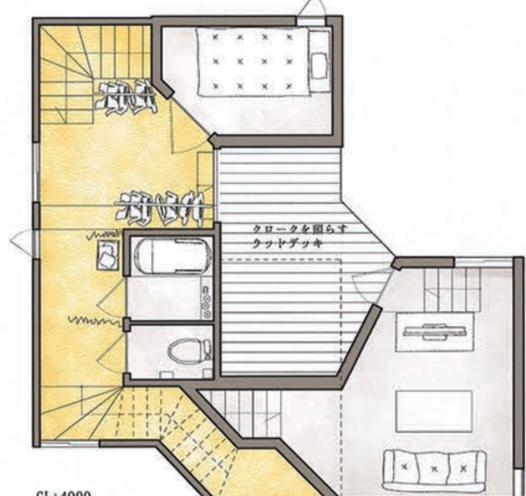
4 平面計画 - 愛事空間と想事空間 -



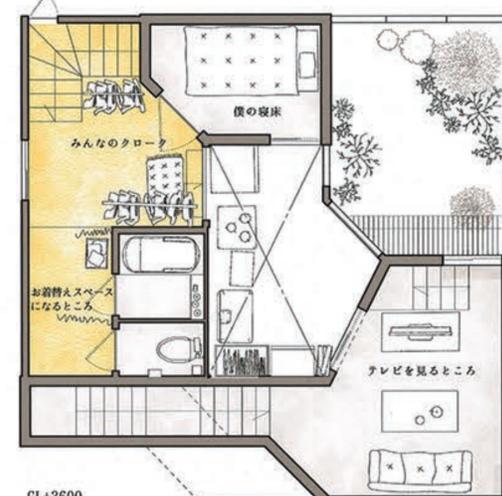
GL+6800
S=1:75



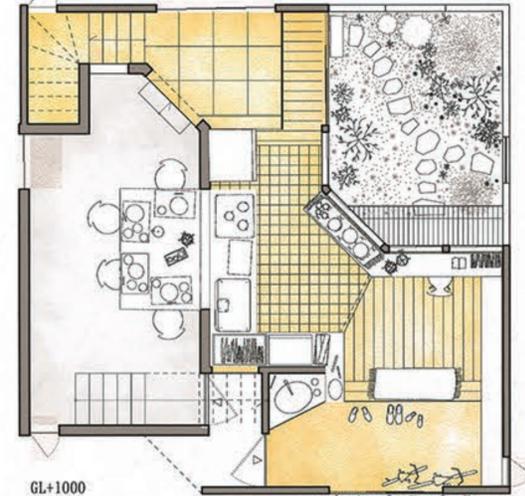
GL+6800
S=1:75



GL+4000
S=1:75



GL+3600
S=1:75



GL+1000
S=1:75



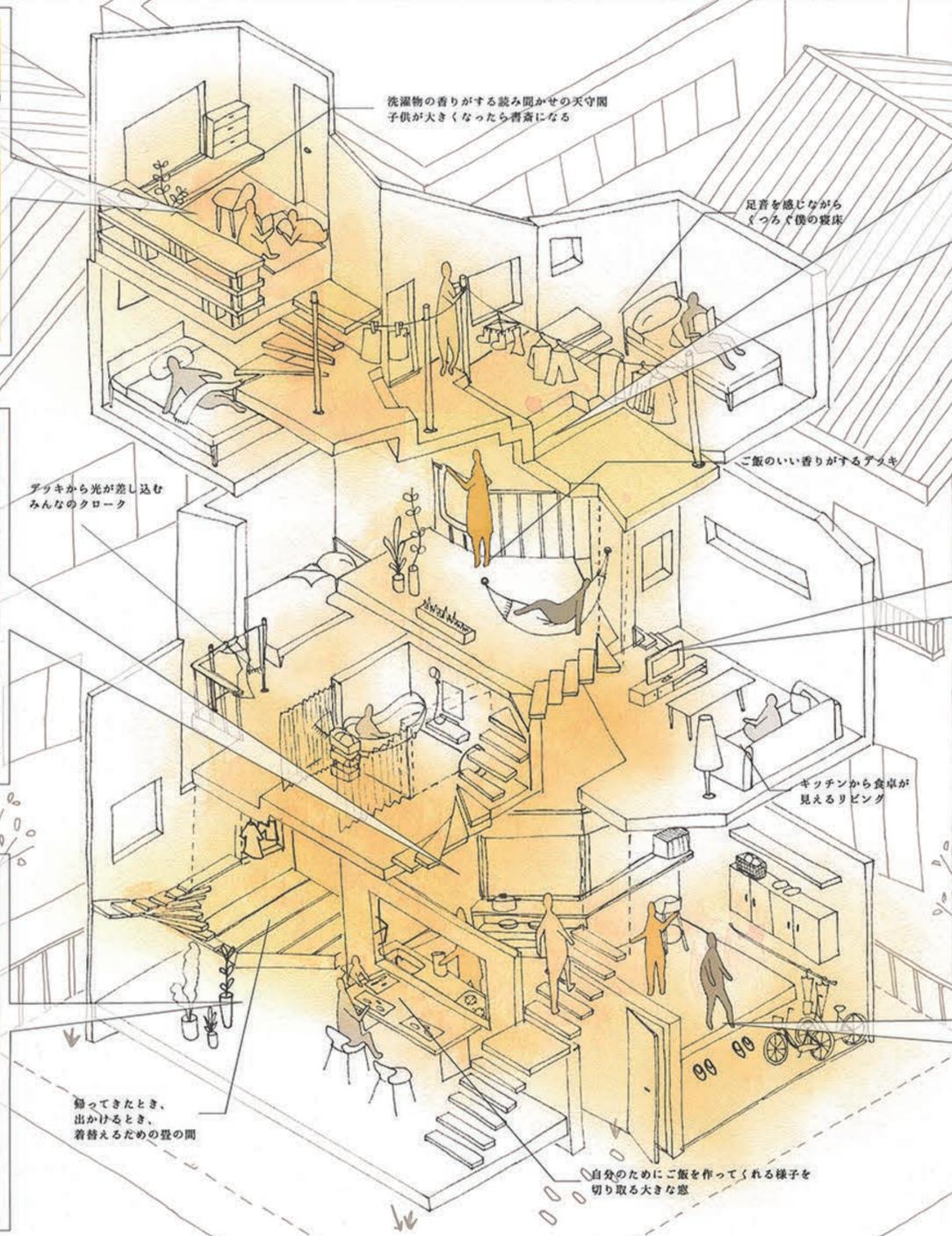
読み聞かせの天守閣には洗濯物の匂いがする。



お見送りの土間、キッチンには坪庭から光が差し込む。



食卓からキッチンを見ると坪庭まで見通せる。



洗濯物の匂いがする読み聞かせの天守閣
子供が大きくなったら書斎になる

足音を感じながらくつろぐ僕の寝床

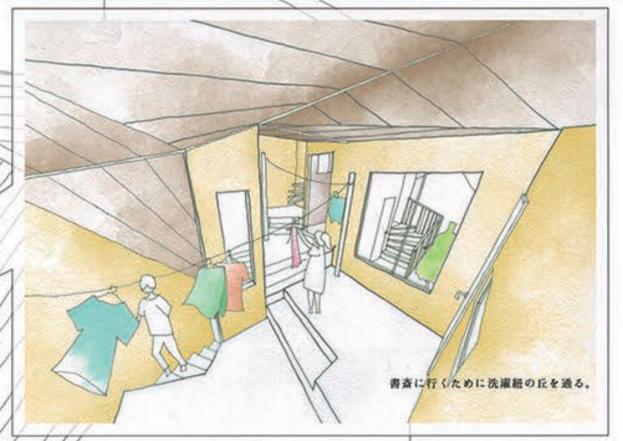
デッキから光が差し込む
みんなのクローク

ご飯のいい匂いがするアツキ

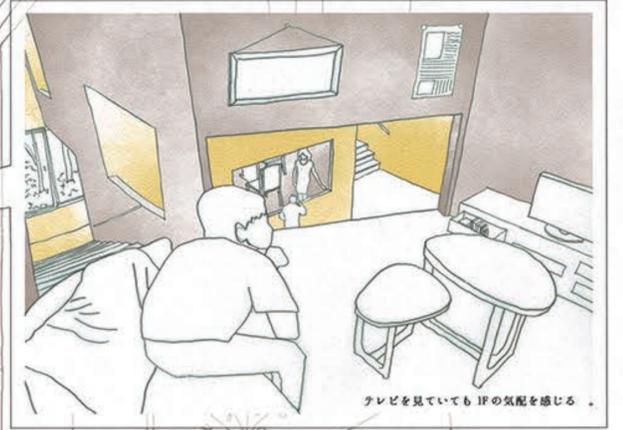
キッチンから食卓が見えるリビング

帰ってきたとき、
出かけるとき、
着替えるための我がの間

自分のためにご飯を作ってくれる様子を
切り取る大きな窓



書斎に行くために洗濯籠の丘を渡る。



テレビを見ていても1Fの気配を感じる。



家族の出発をお見送りの土間から見送る